

## 【研修会参加報告書】

## 令和5年度 社会教育委員等研修会 に参加して

## 1 日 時

令和5年6月28日（水）13:00～16:00

## 2 会 場

新潟市黒崎市民会館

## 3 内 容

## (1) 開会式

- 新潟県社会教育委員連絡協議会の山田会長の挨拶があった。

## (2) 講演会

## ○ 演題

『私の生涯学習』

## ○ 講師

新潟県生涯学習協会 会長 平山 征夫 様

## ○ 講演概要

- どういう人生を送るか…よい人生を送るために学ばなければならない。
- 学校以外の「人から教わる」＝すべて「社会教育」である。
- 「自然体」という生き方の大切さ。
- 良寛から学んだ「騰騰任天真」と漱石の「則天去私」の考え。
- 自身は90歳まで生きたい。年に1本ずつ、計16本の木を植えるためには90歳まで生きなければならない。
- 一人一人が、地域や地球に対して何をしていくか考え、2050年以降を生きる世代に豊かな地球環境を残し、「文化の豊かさ」を目標とすべきである。

## (3) 座談会

## ○ テーマ

『これからの新潟の生涯学習・社会教育を考える』

## ○ パネリスト

新潟県生涯学習協会 会長 平山 征夫 様

新潟県社会教育委員連絡協議会 会長 山田 智之 様

## ○ 座談会概要

- 「大地の芸術祭」誕生秘話
- 十日町・魚沼地域の活性化（高齢化対策、若者流入策、交流人口の増加等）
- 人生100年時代。社会教育の場は十分なのか。
- 地元還元（貢献）できる企業の育成が不可欠。

## (4) グループワーク

- 参加者を4～5名ずつの小グループに分けての情報交換。
- 自分は、新発田市、見附市、五泉市、聖籠町の方々と情報交換を行った。

## (5) 閉会式

- 新潟県社会教育委員連絡協議会の鈴木副会長の挨拶があった。

## 4 感 想

- 平山元知事の「宿命に生まれ、運命に挑み、天命に燃ゆ」という、ご自身の人生で得た教訓などのお話に、とても熱い思いが込められており、生涯学習や社会教育に対するものすごい情熱を感じた。有意義な研修会だった。

（報告＝竹田暢美）

## 令和5年社会教育委員等研修会 参加レポート

新潟市社会教育委員

山岸則子

- 【期日】 令和5年6月28日（水）
- 【会場】 新潟市黒埼県民会館 ホール
- 【対象】 社会教育委員、生涯学習・社会教育行政関係者
- 【内容】
- 1 開会式
  - 2 講演会
  - 3 座談会
  - 4 グループワーク
  - 5 閉会式

## 〈講演会〉 テーマ「私の生涯学習」

講師 新潟県生涯学習協会 平山征夫

## 内容概要

○社会教育のプロではないので、自分の生涯学習で得た教訓の数々の話し

→生涯学習の今日的意義に対する自分の考え

○人生で得た教訓など～エッセイ集「終列車出発す！」の出版、そこに書かれた我が人生のエピソードの数々

○私の生涯学習テーマ～多種（趣）にわたる学習テーマ

○改めて“生涯学習”を考える

→自分の人生観に影響した生涯学習の数々

大切にしてきた二つの言葉

ますます重要となる人生百歳時代の生涯学習

最後に遺りたいこと 6つの遺言「2050年以降を生きる君たちへ」

## 〈座談会〉 テーマ「これからの新潟の生涯学習・社会教育を考える」

新潟県生涯学習協会 会長 平山征夫

新潟県社会教育委員連絡協議会 会長 山田智之

→どうやって新潟を活発にするか、元気にするか

大地の芸術祭への思い

大学～50歳第一の人生、50歳から第二の人生

そこに生涯学習や社会教育がある。早くからテーマを決めることが大事

人生100年の社会教育体制

幅広くそれだけを受け入れる社会教育がいまあるか

<グループワーク>

テーマ 「社会教育委員として取り組みたいこと」

自分の加わったグループメンバー

- ・阿賀野市社会教育委員 1年目
- ・十日町市社会教育委員 2年目
- ・弥彦村社会教育委員 2年目
- ・刈羽村社会教育委員 2年目

年数が近い委員でのグループワークであった

主な意見

- 社会教育委員の知名度も低く、何を担う委員であるか自分の理解が深まっていない
- 日常の生活が社会教育ではないか
- 活動例
  - お寺で子どもたちの集まり、ボランティア活動、不登校支援、まつり委員、など
- 財政が豊かだとひとりひとりが将来的なものに意識が低いことが課題

## 令和 5 年社会教育委員等研修会 参加レポート

期日 令和 5 年 6 月 28 日(水)  
会場 新潟市黒崎市民会館ホール  
対象 社会教育委員、生涯学習・社会教育行政関係者

## ① 講演会 13 : 15 ~ 14 : 15

テーマ「私の生涯学習」

講師 新潟県生涯学習協会 会長 平山征夫様

\*生涯学習にかかわったきっかけからはじまり、スペシャルオリンピック、木を植える「卒寿の森運動」で 90 歳まで生きて、人生で人が出す二酸化炭素を酸素に変えるのに必要な 16 本の木を植えて地球にお返しすることなどにかかわっている。

\*「宿命に生まれ 運命に挑み 天命に燃ゆ」を人生の教訓として、努力して挑むことが必要。

\*幼いころに雪の降る中見あげた空、夏の空で見た入道雲から学んだことを今も教訓としている。

\*中 2 の時に出会ったお爺さんが言ったことから人間は死んだときにどれだけ人が嘆いてくれるかが大事だとおしえてくれた。など、平山さんが生きてきたうえでの人生のエピソードで学んできた話。

\*すべてが社会教育（生涯学習）と言える。

## ② 座談会 14 : 15 ~ 14 : 30

テーマ「これからの新潟の生涯学習・社会教育を考える」

平山征夫様・新潟県社会教育委員連絡協議会 会長 山田智之様

\*大地の芸術祭と平山さんとのかかわりについて

北越北線の開業に向けて都会からの人たちを迎えるためにどうしたらよいか。

地域の特徴の自然を生かす（案ができるまで 4 年半かかった。）アートづくり。

最近では地域の人の協力が鍵。都会からの移住者も増えてきた。

少子高齢化の中で社会教育も含めて発展させるためには産業を高度化して豊かな県づくりが重要となってくる。新潟の県民性（真面目であり欲がない）を打破して地域の課題を解決できる企業を作っていく事が大事。

## ③ グループワーク

テーマ「社会教育委員として取り組みたいこと」

グループワークの中では、何をするとところがまだわからないという方が多かった。民生委員や児童委員は地域密着型で、顔が見える関係で成り立っているが社会教育委員は位置づけが分からない。始まってから、生涯学習推進計画の見直しをするところとしてしか認識がない。行政の手伝いのな感じしか見えないなどという意見が出され、取り組みたいことまでには発展しなかった。

## ④ 参加して

社会教育委員の在り方に疑問を持たれている方が多いグループだったので、日頃から感じている社会教育委員が何をすべきか、どう動いていくべきなのかを実感することはできなかった。

文責 白神道子

## 令和5年社会教育委員等研修会 参加レポート

氏名 清水隆太郎

- 1 期日：令和5年6月28日（水）
- 2 会場：新潟市黒崎県民会館 ホール
- 3 対象：社会教育委員、生涯学習・社会教育行政関係者

## &lt;参加報告&gt;

## ▼講演会「私の生涯学習」

新潟県生涯学習協会会長・平山征夫様

ご自身の生い立ちからご経験の中で、多方面に関心を持たれて学び続けておられる生き方をお聞きした。

社会成立の基本ということで、自助、共助、公助のお話をしておられたが、このキーワードは社会教育にもつながるものだと感じた。自己責任の考え方は日本文化においても根底にあるもので、どんなに社会システムが高度化しても、一人一人に自助の考えがなければ成り立たない。社会教育とはただのカルチャー教室ではなく、自助と共助の心を育てることが根幹になればいけないと思う。

## ▼座談会「これからの新潟の生涯学習・社会教育を考える」

座談会のテーマと内容が合致していたかは疑問だったが、平山氏が会場からの質問で答えておられたこれからの新潟に必要な政策として「地域に貢献するグレートカンパニーを増やしていく」という話題は、企業人としては共感できるものだった。活力ある地域をつくるためには産業と文化がよい関係をつくりながら連携していくことは必要だと思う。

1点だけ、平山氏の知事時代のご功績である「大地の芸術祭」において、平山氏と大地の芸術祭総合ディレクターの北川フラム氏との出会いの話として、「平山氏がテレビを見ていて北川氏を見つけた」とお話しされていた。しかし、それ以前、新潟市にあった創庫美術館「点」で1988年に開催されたアパルトヘイト展で北川氏と新潟はつながっており、大地の芸術祭の開催においては草の根的な市民による文化活動が基盤となっていたことに触れられなかったのは残念であった。

## ▼グループワーク「社会教育委員として取り組みたいこと」

弥彦、刈羽、五泉、三条の社会教育委員と同卓。数名の方は公民館を利用されているサークルの方が、その延長で社会教育委員の委嘱をされており、「そもそも社会教育委員とは何をやる役割なのか？」という話題もあった。

情報交換では

- ・中学校での部活動の地域移行に対して地域の「達人バンク」をどう活用できるか(五泉市)
- ・仕事をしながら社会教育に関わる時間の使い方と人材不足をどう解消するか(弥彦)
- ・公民館「ラピカ」における職員と地域の保護者と講師人材の連携(刈羽)

等の話題提供があった。